

異校種間連携

～保・幼・小・中・高等学校等～

平成22年10月



『福岡の教育ビジョン』の提言では、子どもの「学ぶ意欲の低下」「自尊感情の低下」などが指摘されています。子どもは、自然や社会と直接関わることによって学ぶ意欲を高め、より豊かな知識を得ます。そして、その学びを日常生活に積極的に活用し、失敗しても繰り返し挑戦し達成したり、他者から認められたりすることによって、さらに意欲や自信を増し、学んだ知識をより確かなものにしていくことができます。

つまり、「学ぶ意欲」「自尊感情」等を高めるには、幼児期からの様々な体験や学びを積み重ねていくことが大切なのです。このため、保育所（園）、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教育を互いに理解し、一貫性のある連携した指導を行い、各学校段階における基礎的・基本的な内容を子どもに確実に理解させる必要があります。

多くの学校では、学級や学年、または学校の枠を超えた異年齢集団の交流を図り、「こんな小さい子に教えることができた。」「慕われるのでやって良かった。」「自分って認められているんだ。」という、子どもたちの「学ぶ意欲」や「自尊感情」の高まりにつながる取組が行われています。今回は、異校種の子どもたちが直接関わり合った事例をもとに、どのようなことが大切なのかを一緒に考えていきましょう。



それぞれにねらいがある体験を！

異年齢の子どもたちがともに活動する場合、一方がお客さんになってしまえば、価値ある体験とはいえません。その体験で何を学ぶのか、どのような力をはぐくもうとしているのか、それぞれにねらいが必要です。異年齢集団で体験することが目的ではなく、「体験を通して～を身につける」ということが大切なのです。そのためにも、互いの指導者がねらいを明確に持って打合わせ、体験の事前・事後の指導を適切に行うことが必要です。そのことにより、ねらいの達成はもちろんのこと、相手に対する様々な心遣いや配慮ができるようになります。

小学校・大学と高校との連携事業 ～福岡県立戸畑高等学校における取組～

これらの取組のねらいは、異年齢の人たちとの関わりにより、人間関係能力の重要性に対する意識を高めるとともに、社会に貢献する活動を通して、周囲から認められる体験を積み重ね、自尊感情等を高めようというものです。

1. 高校生と北九州市立天籟寺小学校児童との連携

① 小学校運動会・高校体育大会における応援を通じた交流活動

小学校運動会の練習期間に高校の応援部が3回訪問指導し、運動会当日は模範演技を披露しました。また、高校の体育大会当日には、小学校の郷土クラブ児童が戸畑祇園太鼓の披露をしました。

② 地域清掃

小学校の地域清掃活動に高校生が参加し、高校生と小学生の少人数の班編成で活動しました。

2. 高校生と九州工業大学教員・学生との交流活動

高校の文化祭において、数学・理科の面白さ・奥深さを教えてもらうために大学のブースを設け、生徒が多面体を色紙で作成したり、理科の実験を超高速カメラで撮影・放映したりするなど生徒の興味・関心を高める活動を行いました。



異校種間が連携したこれらの交流活動により、高校生にとっては、自覚や責任感、周囲から認められることで得られる自尊感情、学ぶ意欲等の高まりにつながっています。

福農ワクワク体験教室 ～福岡県立福岡農業高等学校における取組～

高校生と小学生が、次のような2回の体験活動を行いました。

○ みんなで挑戦してみよう①「オリジナルパンをつくろう！」

高等学校の施設を利用して、高校3年生と小学6年生と一緒にパン作りに取り組みました。

○ みんなで挑戦してみよう②「みんなでおやつをつくろう！」

高校3年生が小学校に出向き、小学6年生と一緒に肉まんなどを手作りしました。

この2回の体験で、高校生は指導する立場となって活動することにより、学習で得た食品作りの知識や技能を生かすとともに、相手の立場に配慮した行動や思いやりの気持ちをもって接することの大切さを実感しました。また、小学生は高校生の指導の姿に感謝の気持ちを抱いたり、憧れを持ったりするなど食品づくりの楽しさを味わいました。



教職員の意識が大切です！

異年齢の子どもたちが直接関わり合い、活動することが、子どもの育ちにとって大切であることは、当然のことながら教職員や保育士に理解されていることです。しかし、子どもたちへの効果をより高めるためには、教職員らが相互に関わり合い、互いの取組のねらいを理解することや、学習内容や指導法、生徒指導の考え方等についての共通理解も必要になってきます。

下記のような連携した取組は、他の地域においてもそれぞれの実情に応じて行われています。「集まって研修をする」という事実を目的とするのではなく、そのことを通して、教職員一人一人が、異校種間で連携し理解し合うことの必要性を意識し、活動していくことが重要なポイントです。

まちぐるみで子育てを！芦屋町さわやかプロジェクト

芦屋町では、学校・家庭・地域社会が心をひとつにして、子育てに取り組むための「さわやかプロジェクト」を推進しています。その取組のひとつに、各期の重点テーマを設定して、町内の保育所・幼稚園・小学校・中学校が連携して、具体的な指導や支援を行うものがあります。このテーマをもとに、家庭や地域社会が日常的な指導を行うことを大切に、「家庭の約束づくり」や「地域でのあいさつ運動」に主体的に取り組むよう呼びかけています。

また、保・幼・小・中学校の子どもたちが共に活動する学習はもちろんのこと、保・幼・小・中学校の全教職員を対象とし、教育講演会や実技研修会、授業研修会を開催し、教員相互が学び合うことができ、共に子どもたちを育てるといった共通理解が図られています。

〈芦屋町 各期の重点テーマ〉

月	重点テーマ
4～6	さわやかなあいさつと正しい言葉遣いをしよう。〈あいさつ・言葉遣い〉
7～9	望ましい生活習慣を身に付けよう 〈基本的な生活習慣・責任と役割〉

〈教職員が共に学び合う場〉

- 芦屋町小学校教員実技研修会
(中学校の教員が実技指導の講師)
- 芦屋町特別支援教育講演会
- 芦屋町小・中教科等研究会

等

福岡県教育庁教育企画部企画調整課 教育力向上対策室 TEL 092-643-3882
教育力向上福岡県民運動ホームページ <http://www.fukuoka-kenminundou.jp>

※ このリーフレットは、上記ホームページからダウンロードできます。そのまま印刷して配布、学校(園)・学年だよりやホームページ等に一部抜粋・引用して配布、学級懇談会等資料として配布するなどして有効に活用してください。